

2023年度学校評価（慶應義塾高等学校）

本校の教育理念	学問の修得に基づいた「独立自尊」の精神を育て、気品と智徳を備えた生徒を育成することを目標とする。				
本校の特色	本校は、創立者福澤諭吉の精神に基づき、小学校から大学に至る一貫教育において、中等教育の一画を担うものである。従って、在校生が慶應義塾大学へ進学することを前提として教育方針は定められる。また、本校は、大学と隣接しており、カリキュラムあるいはクラブ活動などにおいて、大学との密接な連携がなされる。一貫教育校として、大学そして小・中学校との連携は学校教育の全ての面に関わるもので、今回の学校評価においては、特別の項目として取り上げてはいないが、個々の項目にその要素が含まれる。				
学校評価の経緯と今年度の評価対象	本校では、平成20年9月に初めて学校評価委員会を設置した。今年度は教育活動（必修科目・卒業研究）、特別教育活動（クラブ活動・生徒会）、安全管理、運営（図書）、学校いじめ防止方針に基づく取組の実施状況について点検・評価を行う。達成度については担当者判断、または生徒によるアンケートを実施し、A～D段階で表示する。				
評価項目	取組目標	具体的な方策	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
教育活動					
必修科目	国語 読解および表現活動を中心に授業を展開し、論理的思考力、表現力、語彙力の向上を図る。古典の学習を通じて、伝統文化の本質および古典を学ぶ現代的意義を体得できるようにする。	幅広い時代の多様な文章に触れる。読解の解説にとどまらず、発展的に考え、自らのことばで表現する機会を設けることで、理解が深まるよう導く。	対面でのやり取りに加え、Teams等のツールも活用し、自分の考えを、適切なことばや表現で伝える活動を充実させることができた。古典学習においても、授業内で様々な活動を実施し、その面白さと意義を体得させることができた。	A	表現活動の中でも、書く活動をさらに充実させ、与えられた課題に対して、一定の分量の文章を書いて論理的に答える力を継続して養う。
	地理歴史 現代的諸課題の形成に関わる歴史的、地理的事象について認識を深め、その解決に必要な資質、能力を養う。	資料を効果的に用いて、幅広い知識・多面的な思考力を習得させるとともに、生徒の主体的な学習活動を促す。「地理的・歴史的見方・考え方」に留意する。	地理的・歴史的見方・考え方に留意しつつ、歴史的、地理的事象についての認識を深めた。	B	多岐にわたる史資料をより効果的に用いていきたい。また時間的余裕が少ないため、年間の授業進度を洗練させていきたい。
	公民 政治・経済・法律・倫理・哲学といった幅広い分野の中で、深い知識と教養を身につけることを目的とする。	知識の習得に特化することなく、生徒との双方向のコミュニケーションをとりながら授業を展開していく。	発表やディベートを実施し、生徒の参加意識を高め、多角的・多面的な思考を促すことができた。	B	学習した内容を自らの考えにまで発展させ、異なる意見をもつ人との討論を通じて新たな気づきを得られるような授業を目指したい。
	数学 高等学校数学の基礎となる内容から高度な内容まで、幅広く取り扱い、思考力を鍛える。	演習時間を多く取り入れ、自分が手を動かすことで理解が深まることを実感させる。	「そもそも数学に興味を持ってない」「勉強しているのに結果が出ない」という生徒がいる以上、十分に達成したとは言えないと考える。	B	授業の際の生徒の反応・試験の答案等を省みて、各担当者が試行錯誤するしかないであろう。また教員自らが常に学ぶ姿勢を持ち続けることも大事であろう。
	理科 幅広い科学の知識を身につけ、身近な現象が科学と密接に関係していることを理解し、科学的な思考法を習得する。	授業を通して基礎知識の定着を図り、体験的な実験、観察等を行うことにより思考や理解を深める。	講義・実験・演習を三位一体として、基本的な内容から応用の範囲まで理解を深めることができた。	A	MS Teamsをより活用して、遠隔授業で得られたノウハウも活かしながら、より充実した対面授業の在り方を模索していく。

評価項目	取組目標	具体的な方策	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
必修科目	保健体育 身体活動を通じ、運動やスポーツの技能を高め、将来の健康的な生活習慣の礎を築く。健康について正しい知識を学習する。	個人・集団スポーツを偏りなく授業に配分する。BLS教育を通じ、「命」の尊さを学習する。	個人・集団スポーツを偏りなく授業に配分し授業を実施できた。BLS教育を通じ、「命」の尊さを学習することができた。	A	数件の怪我が発生し、安全・危機管理への配慮を行う必要がある。生徒間の体力・技能に大きな差があり、個々に対応した指導も工夫していきたい。
	芸術 個性豊かな表現力と幅広い知識や鑑賞能力を伸ばす。	基礎的な表現方法の実習と授業をバランス良く取り入れ、芸術的感性を高める。	実技、実習および鑑賞を通じてさまざまな分野を知り、感性を磨くことができた。	A	引き続き、個性を生かしつつ幅広い知識の獲得と芸術的感性を高める手助けをしていく。
	外国語 英語 4技能（聞く・話す・読む・書く）をバランスよく引き伸ばしながら、多言語・多文化への理解を深める。 第二外国語 「読む・書く・聞く・話す」の4技能をバランスよく伸ばし、総合力を高める中で、異文化理解も深めていく。また、大学での学習にも繋げていく。	語彙・文法事項の習得をしながら、様々な言語活動の機会を多く提供する。 3年次にドイツ語・フランス語・中国語の3科目を設置する。2年次での学習を振り返りながら、より実践的なコミュニケーション活動なども行い、向上心と意欲を高める。	LMSやTAの活用により、授業内で生徒に言語運用を促すことができた。 生徒によって達成度は様々であるが、取組目標は概ね達成できた。	A B	新カリキュラムの導入に伴う新しい英語活動等の検討を継続したい。 生徒がよりアウトプットをできるようにするため、授業展開など工夫・改善をしていきたい。
	家庭 自立して生活するために必要な知識と技能を習得させ、持続可能な生活を営む態度を養う。	裁縫や調理等実習を行う。生活と社会・環境問題を関連させながら指導する。	概ね達成できたが、生徒の関心や習熟度に差があった。	B	各分野でより実践的・体験的な学習活動の機会を増やすなどの工夫を行う。
	情報 生徒間の既習内容の差が大きいことが予想されるプログラミングに関して、どの生徒にもフィットした学習となるようにする。	自学自習型の教材を工夫するとともに、チーム・ティーチングによるきめ細かなサポートを行う。	副教材「Python入門」を補足するテキストを作成して配付したが、十分に活用する時間を確保できなかった。	B	実習部分の時間の確保に向けて、座学部分の学習内容の精選などを含めて検討する。
卒業研究	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で分類を設定し、生徒の希望に応じた選択ができるようにしている。生徒各人が論理的思考を養い、表現力を身につけ、大学へ進学するための準備をさせる。 最終的に50講座を設置した。その内訳は、言語系5講座、社会系10講座、数学系11講座、理科系6講座、保健・体育系7講座、文学系4講座、芸術系（音楽・美術）5講座、情報・コンピュータ系1講座、家庭・生活系1講座である。 優秀な卒業研究として8作品を選出した。 				
	国語 生徒が自身のテーマを発見し、深められるよう、適切な指導、助言を行う。あわせて、論文の執筆に必要な知識および表現力を身につけさせる。	参考となる図書や学術雑誌の紹介のほか、映像等の紹介や講読・上映会、必要に応じて発表、実地研修、講師の招聘などが高まるよう導く。	生徒が主体的にテーマを選び、問題を設定した。先行研究にも目を通しつつ十分に調査し、グループでの討論等を通して自らの結論を導き出すことができた。	A	個々の生徒の興味関心に応じた指導や論文の丁寧な添削を引き続き行うために、できれば15名以下の開講が望ましい。

評価項目	取組目標	具体的な方策	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
卒業研究	社会 自らの興味関心に基づいて研究テーマを定め、先行研究や史資料を積極的に収集し、最終的に12,000字程度の論文として研究成果をまとめる力を育む。	各担当教員の指導の下で論文の執筆方法や各分野の基礎となる考え方、研究動向等を学びつつ、発表や議論を通じて研究を進めた。	各自が設定した問いに対して、先行研究等を踏まえて多角的・多面的に考察することが概ねできた。	B	各自が設定した問いの難易度、あるいは研究のプロセス等のチェックを通じて、より個人に寄り添った丁寧な指導が必要だと考える。
	数学 枚数・字数制限は設けないが、論文を提出させる。基礎的・応用的な知識を身につけ、論文を作成する力を育む。	各自のテーマごとに課題を見つけ出し、より良い解決策を考察する。	専門書を読み込み、それを要約してプレゼンテーションする力が身についた。	A	きめ細かい指導をするために、少人数の講座を多く設定することが望まれる。
	理科 理科の各分野からテーマを設定して探究する。学習、実験、調査を通じて研究方法や科学的思考を学び、体験的に科学を理解する。	実験観察・観測・文献調査・発表などを通して、科学的探究の方法を経験させ探究活動を行わせる。	各自が設定したテーマに基づき、実験・観察を行い、データを分析し、学習内容を活かした考察を行うことができた。	A	できるだけ全員のニーズに応えられるような環境や用品の整備ができるとうよい。
	保健体育 体育・スポーツや健康に関する事をテーマとし、調査・実験によりデータを収集し、分析を行う。12,000字程度の論文を提出させる。	各個人の研究テーマを確認して、個別に指導する。同じようなテーマを持つ者同士でグループをつくり、中間発表を行う。	スポーツにおける競技性のみならず、マネジメントやトレーナーの仕事にまで興味を持つ者がいて、良く調べていた。	A	参考文献を多用する者が多かったため、必要最小限にとどめ、自ら調査することを勧めたい。スポーツの現場を直接観察することも検討したい。
	芸術 様々な体験をすることで芸術的感性を磨き、最終的に生徒自らが選んだテーマに沿って研究発表に繋げる。	優れた芸術家の作品分析、研究を通じて各々の芸術における感性を高め、その成果を作品制作、論文に反映させていく。	生徒自らが選んだテーマを時間をかけて取り組んだ結果、概ね納得のいく結果が得られた。	A	芸術に対する探究心、見識を深めながら高度な作品、論文の発表に繋げさせたい。
	外国語 言語にまつわる様々な分野の問題・課題に対して生徒の関心・理解を深める。またそれを表現する方法を身に着ける。	様々な言語材料に触れながら、言語・文化に対する理解を深め、考察する力を育む。また自分の考えを学問的に表現する手法を身に着ける。	教員のアドバイスを受けながら、多くの生徒が自らテーマを定め、それに向かって研究を進め、論文を書きあげることができた。しかし、中には計画的に研究を進められずに、提出がぎりぎりになる者もみられた。	B	生徒みずからが計画的に研究を進められるよう促し、また、全員が余裕をもって論文提出できるように、さらに細かい指導を心掛けたい。
	家庭 生活における課題について調査、体験等を通して考察し、適切に論文を作成させる。	先行研究に触れることにより調査方法、論文の書き方について理解させるとともに、適宜発表の場を設け、取り組みを確認する。	定期的に発表・報告の機会を設けたことにより、計画的に調査・研究・論文作成を行うことができた。	A	テーマ設定、調査・研究の進め方、書き方、プレゼンテーションの仕方について検討する。
	情報 高校生が1年間で取り組める程度の研究テーマを適切に設定できるよう、一人一人の希望をよく聞いて具体的なテーマを見つめられるように指導する。	生徒の興味関心を具体的に引き出しつつ、適宜発表の場を設けることにより、生徒自らがテーマをまとめられるように促す。	一部の生徒は適切なテーマを設定できたが、試行錯誤の中で行き詰った生徒もおり、その場合最終的には教員側でまとめを手伝わざるを得なかった。	B	生徒がより自主的に活動できるよう、発表の場などに緊迫感を持たせるなどして、生徒の取り組みがより活発に行われるよう促す。

評価項目	取組目標	具体的な方策	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
	<ul style="list-style-type: none"> ・受講した生徒にアンケートを実施した結果、取り組みに対する満足度（数字が大きい方が満足度が高い）は5…46.9%、4…33.1%、3…13.8%、2…4%、1…2.1%であった。 ・生徒が卒業研究に取り組んできたと感じた点（複数回答可）は、「今まで知らなかったことを知ることができた」が最も多く17%、次に「論文の書き方を学ぶことができた」15%、「自分の好きなテーマを突き詰めることができて満足した」15%、「達成感があった」12%となっていた。 ・生徒が卒業研究に取り組んで、こうすればよかったと思うこと（複数回答可）は、「もっと内容を掘り下げればよかった」が最も多く36%、次に、「計画的に研究を進めればよかった」32%、「参考文献・データを増やせばよかった」24%、「別のテーマにすればよかった」6%となっていた。 				
安全管理					
設備	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員相互の協力を得て、定期的に教育施設・設備の保守・点検を行い、事故防止や安全対策を図る。 ・生徒の動線に目を配りながら、安全面に配慮する。 ・校内の老朽化した部分の改修や不要設備の撤去を行う。 ・必要な設備の新設を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に各教育施設の安全点検を行う。必要に応じて設備の修繕・改善を行う。 ・生徒会役員の協力を得ながら、生徒の目を通して危険個所の点検を行う。 ・第一校舎の外壁の修繕を行う。教室内の修繕およびシューズボックスの設置を行う。 ・車いすなどでの移動が可能になるようバリアフリー化を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部室棟を中心に大掃除、廃棄物処理、点検を実施し、危険個所の発見に努めた。 ・第一校舎の外壁の修繕（3年目）、一般教室の修繕（2年目）、シューズボックスの設置（1年目）を行った。 ・第一校舎に1か所スロープを設置した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教育施設・設備の保守・点検を定期的に行う。 ・校内の老朽化した部分の改修と新規設備の設置を引き続き行う。 ・バリアフリー化をさらに進める。
保健衛生	<ul style="list-style-type: none"> ・環境衛生調査を継続して行い、生徒の快適な学校生活のための環境を整備する。 ・保健衛生に関する情報を教員や生徒に適宜提供する。 ・新型コロナウイルス感染症への対応を適切に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回、環境衛生調査を継続して実施する。 ・関係スタッフと相互に協力し、迅速に教室環境の充実を図る。 ・食物アレルギー情報を担任と共有し、緊急時対応を準備する。 ・校医・看護師と連携し、有効な感染症対策を実施する。 ・感染症予防のためマスク着用、黙食、換気の徹底を図る。感染者への迅速な対応とケアに留意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境衛生調査を2回実施した。 ・食物アレルギー情報を担任と共有し、研修への参加、啓発を行った。 ・新型コロナウイルス感染症対策として、マスク着用、黙食、教室の換気対策を呼び掛け、発生した感染について迅速に対応した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・環境調査を引き続き実施していく。 ・教員向けに食物アレルギーとエビペン使用の講習会を開催し、必要な情報を発信する。 ・新型コロナウイルス感染症を含め感染症への対策を引き続き実施する。
危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・教職員が安全で安心して学校生活を送ることができるよう、安全教育を推進し、安全管理を徹底する。 ・非常時の意思決定の方法について検討する。 ・非常事態が起こる前に、想定される対応策を準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の実施。 ・生徒・教職員対象のBLS講習の実施。 ・一斉連絡システムの活用および改善。 ・新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、学校運営の平常化を図る。 ・9月に備品の補充点検の実施。 ・南海地震クラスの大災害が発生したときにどのように対応すべきか、校内で議論する。 ・アレルギー対応の非常食を準備し、備蓄場所を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練を実施した。 ・一斉連絡システムを一新し、運用の改善を図った。 ・新型コロナウイルス感染症対策を徹底した。 ・アレルギー対応の非常食を備蓄する設備のための予算建てを行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉連絡システムで保護者向けの情報発信を強化する。 ・新型コロナウイルス感染症対策を万全にする。 ・アレルギー対応の非常食を備蓄する設備を新設する。
運営					

評価項目	取組目標	具体的な方策	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
図書	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室としてより快適で、資料にアクセスしやすい環境を目指す。書庫の狭隘化に対応する。 ・読書推進だけでなく、知的好奇心を掻き立てることができる、様々な知に出会える場所を目指す。 ・できるだけ多くのチャネルで情報発信をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用実績を参考にしつつも、学校図書館として学習・研究に威力を発揮でき、また新たな知との出会いの場所となるような選書・蔵書構築をする。 ・各種配架・展示を見直し、メリハリをつけた図書の展示内容・方法を検討する。 ・書架の狭隘化の対策を立てる。 ・広報にポータルサイトやTeamsを活用する。利用案内を見直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小説に偏ることなく、書評等も活用しながら新鮮でバリエーション豊かな蔵書構成を心がけた。 一方で、購入希望にはできる限り応えた。 ・低書架上の展示を減らし、配架順を直し、見やすく、探しやすくした。 ・狭隘化が進んでいた書架について一部周密書架への移動、除籍を行い、今後の増加に備えた。 ・利用案内を刷新し、次年度の新入生に配布した。 ・ポータルサイトの活用の手始めとして、開館カレンダーの掲載を試みた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・教員など、利用者の協力を得ながら、知の交流の場として図書室が活用されるよう、展示やイベントなどを企画する。 ・図書室からの情報発信を心がける。 ・学術的価値の高くない、古くなって利用されていない資料を除籍し、有用な資料によりアクセスしやすくする。

学校いじめ防止基本方針に基づく取組の実施状況

いじめ防止対策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の声を受け止め、しっかり向き合う。 ・迅速に、組織的に対応する。 ・保護者、関係機関との連携を図る。 ・教員向け講座を実施し、教員の対応のスキルアップを図る。 ・インターネット上のいじめへの対応を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任による生徒・保護者との面談を実施する。 ・クラス、クラブを通して望ましい人間関係の構築を進める。 ・いじめ事案に対し、いじめ防止対策委員会を中心とした対応を行う。 ・あらゆる情報に迅速に対応する。 ・相談室の利用を促進するためのイベントを実施する。 ・一貫校いじめ問題連絡会で情報を共有する。 ・教員向け講座を実施する。 ・生徒に注意喚起を行う。 ・教員の講習会参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者との面談を必要に応じて実施した。 ・イベントや講演会を通して生徒・保護者に相談室の積極的な利用を促し、相談室と連携した。 ・保護者向け講座を1回、教員向け講座を3回、生徒向け講座を1回実施した。 ・一貫校いじめ問題連絡会で情報を共有した。 ・SNS利用に関する注意事項を4月に配付し注意を喚起した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者との面談を積極的に実施するように機会を捉えて促す。 ・保護者向け講演会を実施する。 ・教員向け講座および生徒向け講座を開催し、幅広い参加を募る。 ・あらゆる情報に迅速に対応する。
---------	--	--	--	---	---

特別教育活動

選択旅行	<p>選択旅行は、設定された複数のコースの中から、在学中に最低1回生徒が選択することで、興味・関心のあふる事柄について主体的な学習態度を養う。</p>	<p>夏期選択旅行は、6コースの宿泊旅行、5コースの日帰り旅行を設定した。春期コースは、宿泊コースのみで、海外2コース、国内7コースを設定した。</p>	<p>全コースとも無事に終了した。感染症対策として夏期コースのみ、日帰りコースを設定した。春期コースからは本来の形である宿泊コースと、海外コースを設定した。</p>	A	<p>これまで、新型コロナウイルス感染症拡大のために、多くの制約の中での活動を余儀なくされたが、春期コースから海外コースを含めた本来の形の選択旅行が再開できた。目的地について知識があれば、感動はより深まると思われるので、事前指導をよりきめ細やかに行う。</p>
------	---	--	--	---	--